

H26 シカ年度 個体数モニタリング事業結果

1. ヘリコプターカウント調査（環境省事業）
2. スポットライトセンサス（羅臼町事業・斜里町事業）
3. オシンコシン～真鯉地区の日中カウント調査（知床財団独自調査事業）

1. ヘリコプターカウント調査（環境省事業）

- ・遺産地域の標高 300m 以下全域（図 1-3-2）においてシカのヘリコプターカウント調査を 2015 年 3 月 1～7 日に実施。計 163 群 811 頭を発見（昨年度：計 199 群 935 頭）。
- ・2014 年と比較すると、3 地区（知床岬、ルサ - 相泊、幌別 - 岩尾別）で減少、1 地区（ルシャ地区）で若干増加した（図 1-3-1）。幌別 - 岩尾別地区が前年比 63%（-108 頭）となり、減少幅が最も大きかった。
- ・知床岬仕切柵内および周辺（台地上草原）の巡回撮影調査を 3 月 3 日午後を実施し、計 8 群 130 頭を確認（図 1-3-3）。111 頭が柵内に、19 頭が柵付近の台地に分布していた。昨年の結果（4 群 59 頭）と比較すると倍増しており、柵外（南側）からの流入が示唆された。シカの分布は、知床岬灯台より東側（赤岩側）に集中しており（88 頭）、大部分がメス成獣であった（写真より判定）。西側（斜里側）ではオス成獣の割合が多かった。

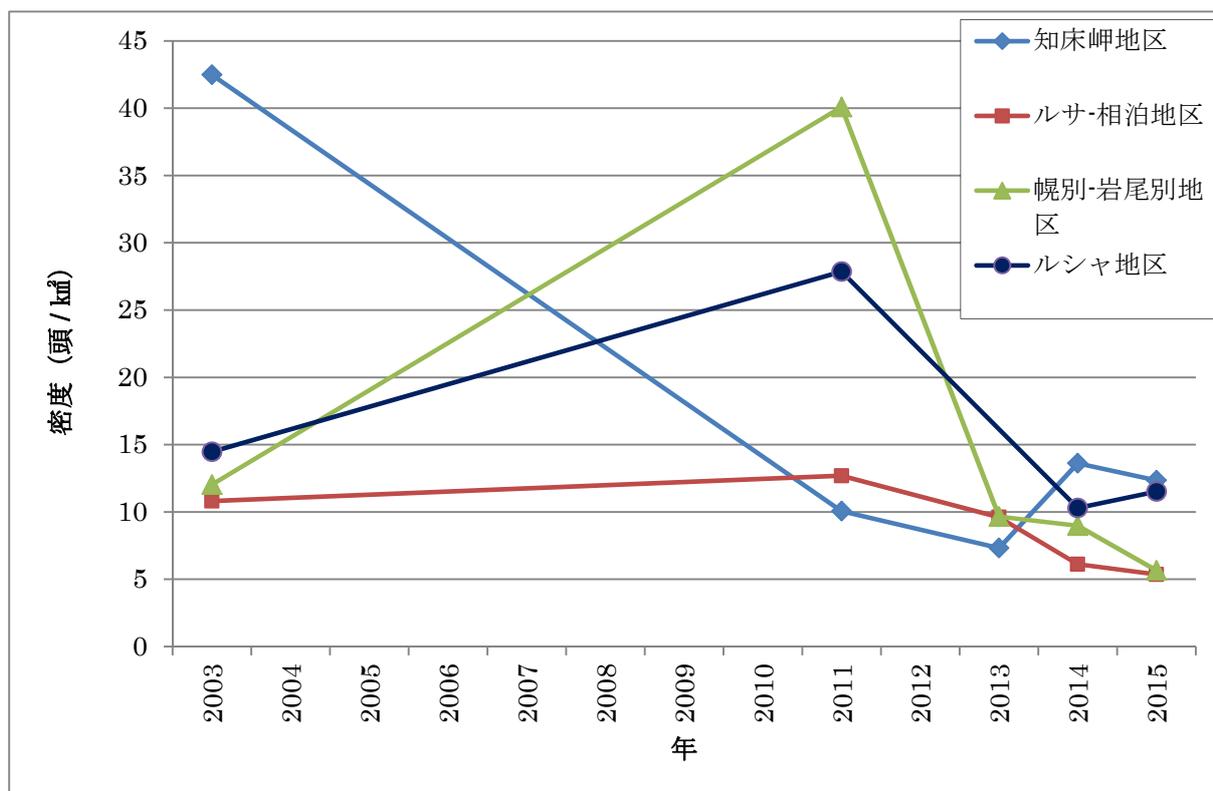


図 1-3-1. 各地区（広義）におけるヘリカウント調査によるシカ発見密度の変化

「知床岬地区：U1 + U11」、「ルサ-相泊地区：U12 + U13」

「幌別-岩尾別地区：U4 + U5 + U6」、「ルシャ地区：U2 + U3」

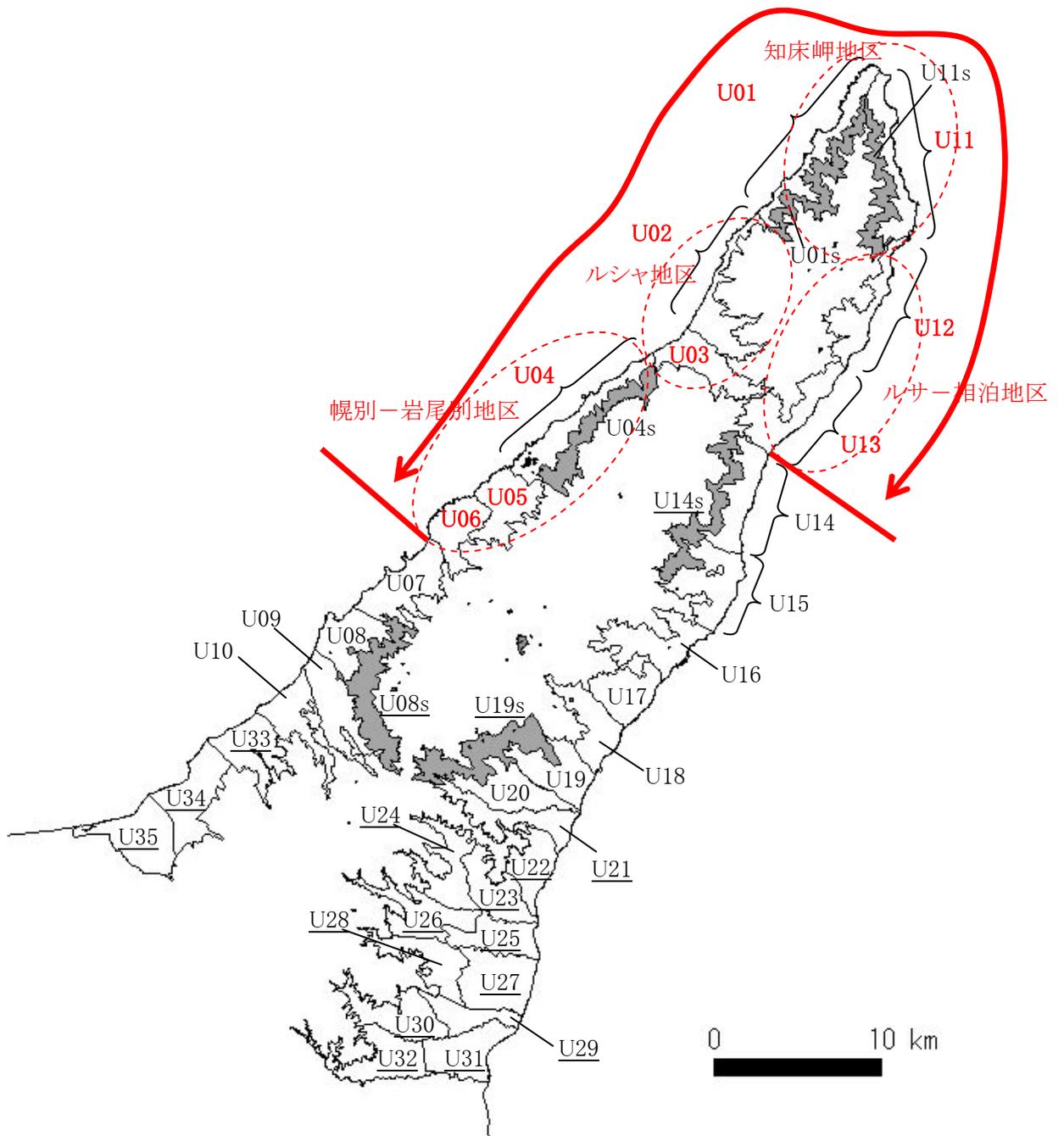


図 1-3-2. 知床半島におけるエゾシカヘリコプターカウント調査の既定調査区

赤太字が 2015 年の調査実施区（知床半島の海岸沿いの先端寄り約半分）
 ※2011 年に設定した 41 ユニットの内の 9 ユニット（遺産地域の低標高全域）

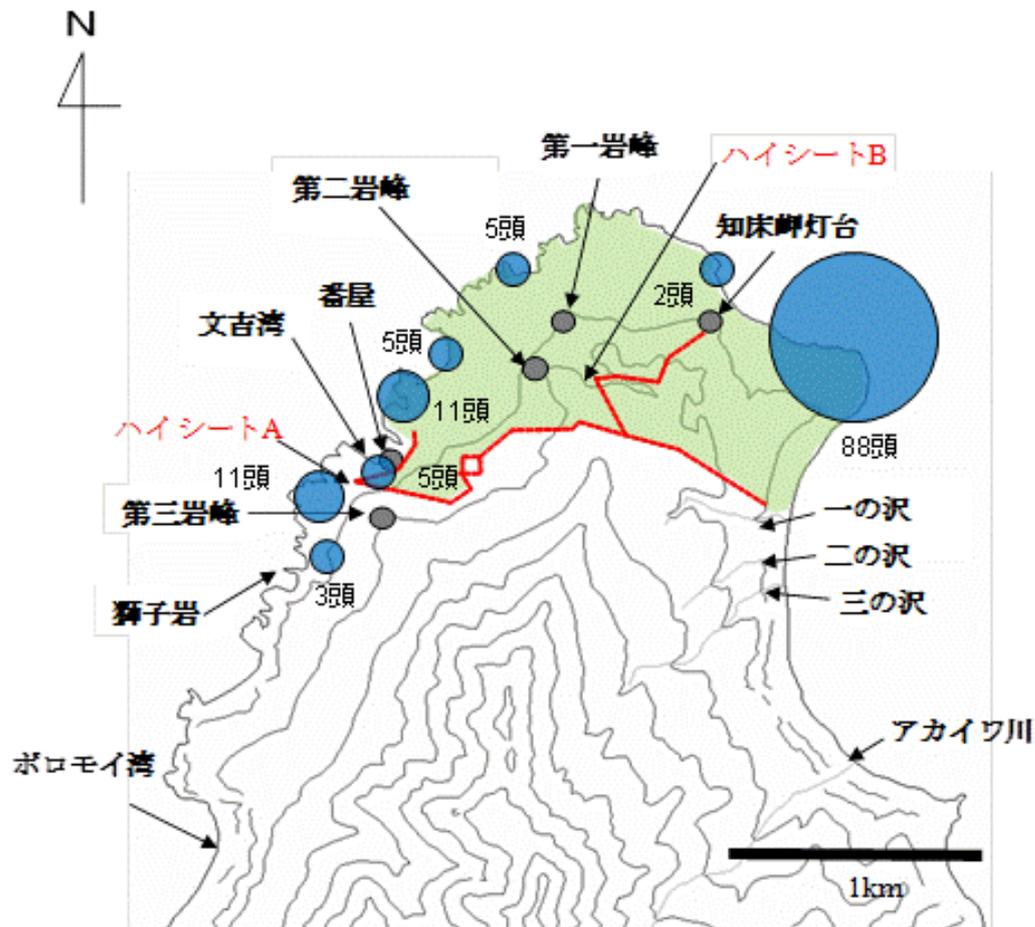


図 1-3-3. 知床岬先端部におけるエゾシカの分布 (2015 年 3 月 3 日午後)
青丸がシカの発見位置、赤線は仕切り柵

<知床岬地区>

- ・発見頭数は 253 頭 で、前年 (2014 年) から 9%減少。
- ・知床岬先端部の台地上草原 (仕切柵内および周辺) では 130 頭 を確認。
その後、2015 年 6 月 10 日までに 87 頭 が捕獲されたため、次の越冬期の頭数は、単純計算で残り 43 頭。

<ルサー相泊地区>

- ・発見頭数 120 頭 で、前年 (2014 年) から 12%減少。

<幌別一岩尾別地区>

- ・発見頭数は 184 頭 で、前年 (2014 年) から 37%減少。

<ルシャ地区>

- ・発見頭数は 254 頭 で、前年 (2014 年) から 12%増加。

表 1-3-1. 2015 年調査結果および過去 2 年間の調査結果（2014 年, 2013 年）との比較

調査区	面積 (km ²)	2015年調査				2014年調査		2013年調査	
		発見数 (頭)	密度 (頭/km ²)	2014年比		発見数 (頭)	密度 (頭/km ²)	発見数 (頭)	密度 (頭/km ²)
U-01	10.39	129	12.42	-1	99%	130	12.51	89	8.57
U-11	10.09	124	12.29	-25	83%	149	14.77	61	6.05
知床岬地区 (広義) 計	20.48	253	12.35	-26	91%	279	13.62	150	7.32
U-12	9.95	93	9.35	+44	190%	49	4.92	94	9.45
U-13	12.43	27	2.17	-61	31%	88	7.08	121	9.73
ルサー相泊地区 (広義) 計	22.38	120	5.36	-17	88%	137	6.12	215	9.61
U-04	11.45	63	5.5	-35	64%	98	8.56	83	7.25
U-05	11.54	57	4.94	-42	58%	99	8.58	105	9.1
U-06	9.51	64	6.73	-31	67%	95	9.99	126	13.25
幌別一岩尾別地区 (広義) 計	32.5	184	5.66	-108	63%	292	8.98	314	9.66
U-2	11.07	105	9.49	+55	210%	50	4.50	No Data	
U-3	10.97	149	13.58	-28	84%	177	16.11	No Data	
ルシャ地区 (広義) 計	22.04	254	11.52	+27	112%	227	10.28	No Data	

2. スポットライトセンサス（羅臼町事業・斜里町事業）

<ルサー相泊地区>

- ・2009年以降、春と秋に各時期5日間集中で、道路沿いの10.2 km 区間で調査。
- ・今春は4/27～4/30の4日間（土砂崩れが発生し4回で終了）に調査し、発見頭数56頭、密度指標値5.5頭/km、100メス比15.5であった（いずれも5回分の平均値）。

発見頭数の最大値は84頭。

- ・調査区間の中間～後半（熊岩～相泊）における発見数が比較的多かった。

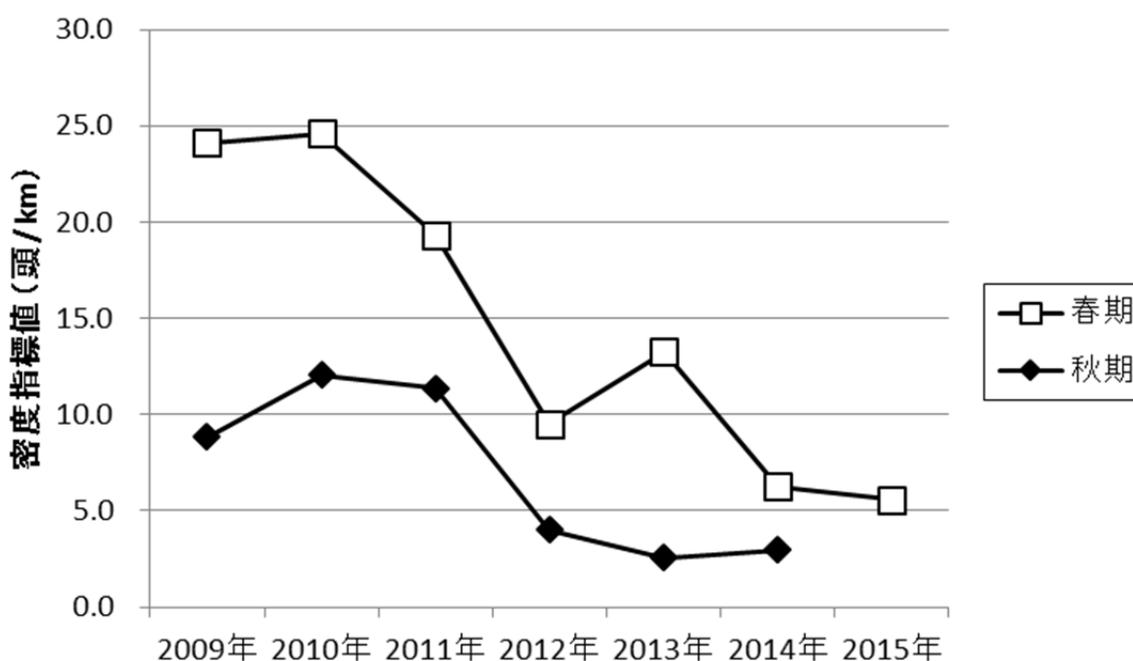


図 1-4-4. ルサー相泊地区のライトセンサス結果（H20～26 シカ年度，各5回分の平均値）

※実際の発見頭数は密度指標値の約10倍

※同地区では H21（2009）シカ年度からエゾシカの捕獲手法検討、H24 シカ年度から密度操作実験が実施され、これまでに計 709 頭（うちメス成獣 363 頭）が捕獲されている。

<幌別-岩尾別地区>

- 1980年代末より春と秋に連続して複数回、幌別コース（調査距離 4.9 km）および岩尾別コース（同 4.5 km）の2コースで実施。
- 2015年春（4/26～30）は、両コースで昨年より大幅に減少。最大発見頭数は幌別40頭（昨年98頭）、岩尾別14頭（昨年26頭）。

密度指標値（平均）は幌別 5.7頭/km（昨年15.3頭/km）、岩尾別 1.9頭/km（昨年3.5頭/km）（図1-3-5）。捕獲事業の効果が示唆される。

- 100メス比は幌別40.2（昨年17.3）、岩尾別18.5（昨年13.3）と、両コースとも増加した。

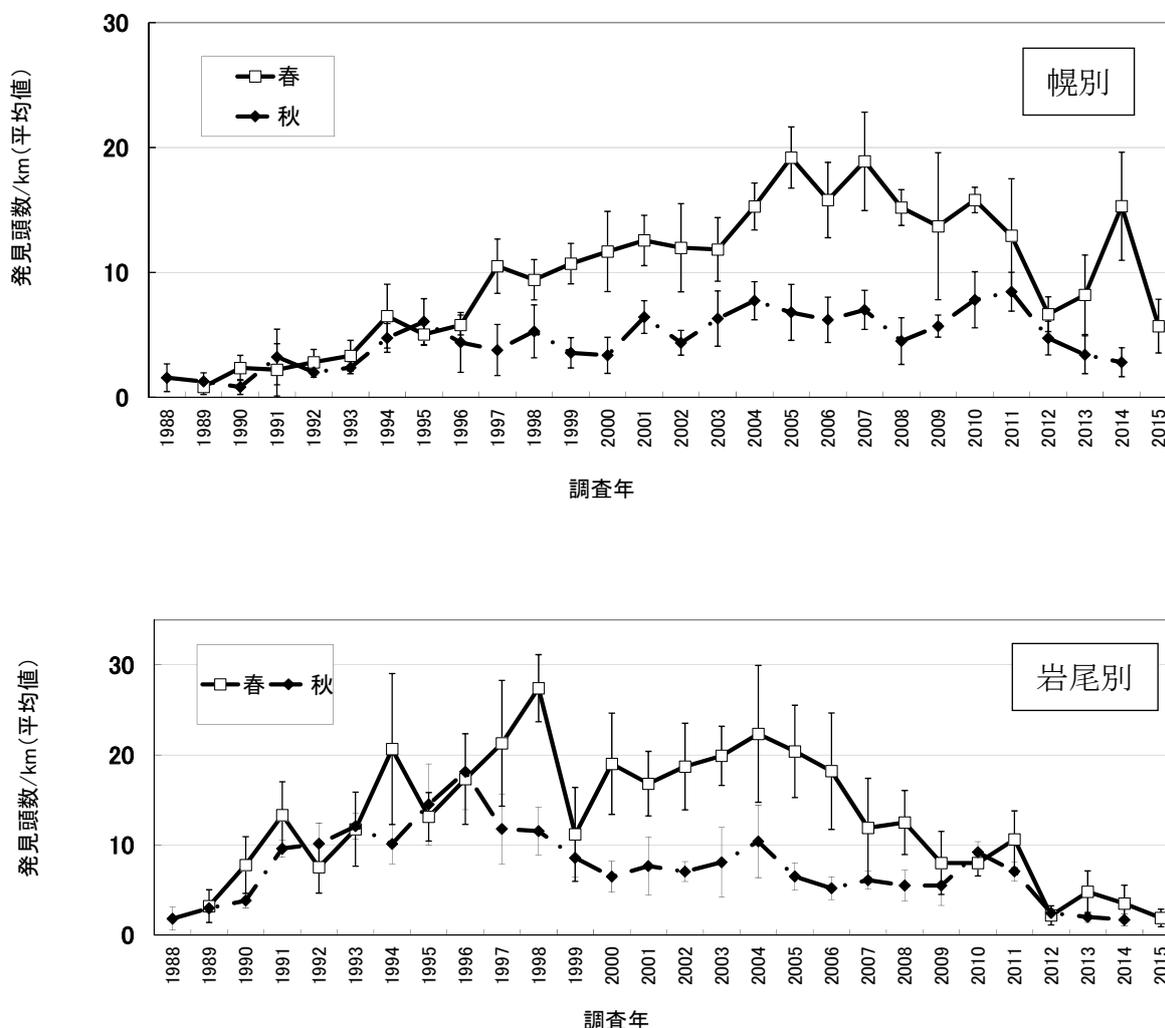


図1-3-5. 幌別-岩尾別地区のスポットライトセンサス結果（春1989～2015，秋1988～2014）
（数値は平均±標準偏差）

3. オシンコシン～真鯉地区の日中カウント調査（知床財団独自調査事業）

- ・斜里町側隣接地区の三段の滝（オショコマナイ川）～オチカバケ川の国道 334 号沿い、延長約 12 km において、越冬期のエゾシカの日中カウント調査を 2008 年 1 月（H19 シカ年度）より実施。
- ・国指定鳥獣保護区内の区間（三段の滝～オペケプ川）が約 4km、鳥獣保護区外（オペケプ川～オチカバケ川）が約 8 km である。
- ・冬期の午後に国道沿い斜面等にいるエゾシカを低速で走行する車内よりカウント。
- ・2015 年の最大発見頭数は 238 頭（3 月 15 日）（昨年 472 頭、3 月 12 日）。密度指標値は 19.8 頭/km（昨年 39.3 頭/km）。
- ・最大確認頭数が前年より半減したが、これは保護区内と保護区外の出現ピークがずれたことにより、全体の確認頭数が減ったためと考えられる。保護区内のピークは 2 月 21 日（216 頭）で、前年 237 頭と同程度。保護区外は可猟期であったため極端に少なかった。

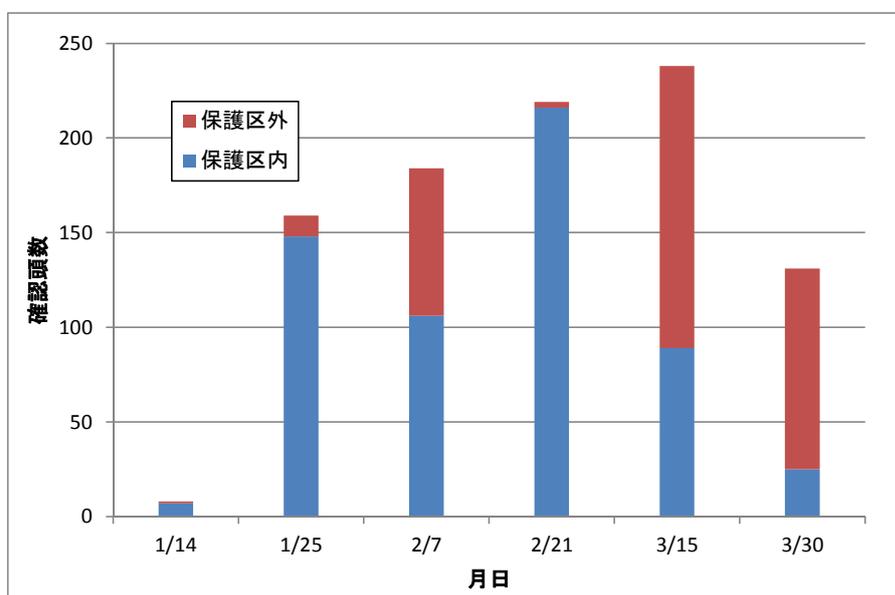


図 1-3-6. オシンコシン～真鯉地区におけるエゾシカの日中カウント結果（2015 年）

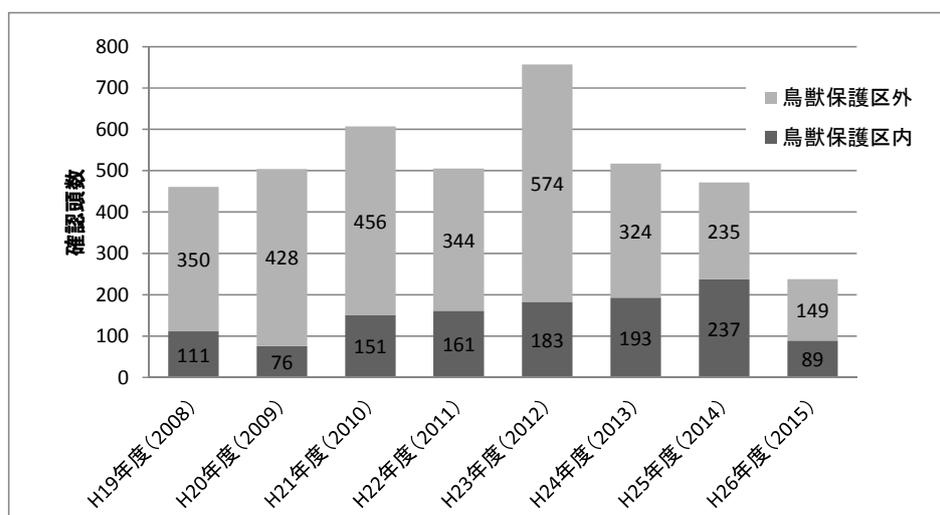


図 1-3-7. 日中カウントにおける年別最大確認頭数の年次推移（H19～26 シカ年度）
（X 軸の「年度」はシカ年度を示している）